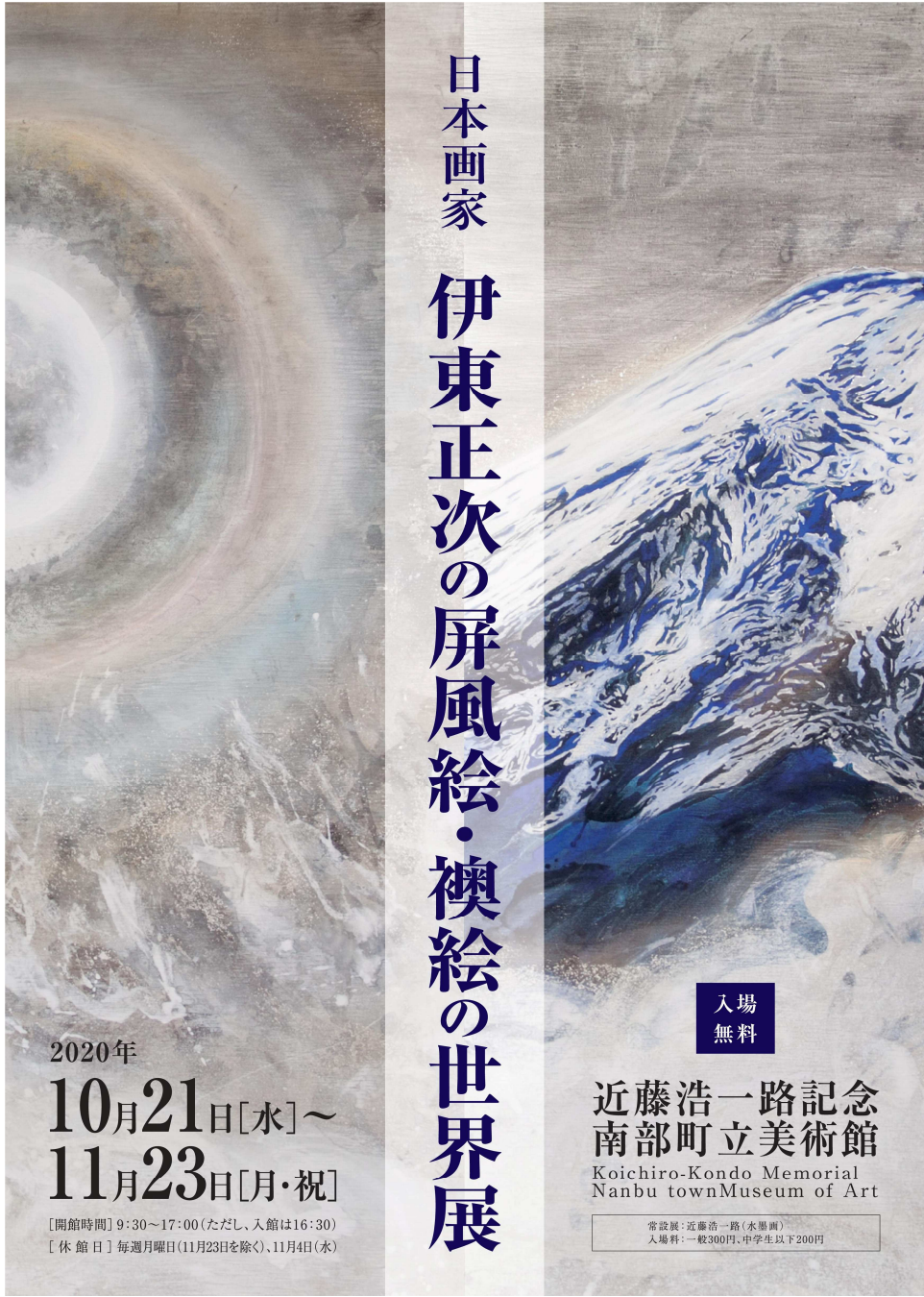


日本画家 伊東正次の屏風絵・襖絵の世界展



入場
無料

近藤浩一路記念
南部町立美術館
Koichiro-Kondo Memorial
Nanbu townMuseum of Art

常設展：近藤浩一路（水墨画）
入場料：一般300円、中学生以下200円

2020年
10月21日[水]～
11月23日[月・祝]

【開館時間】9:30～17:00(ただし、入館は16:30)
【休館日】毎週月曜日(11月23日を除く)、11月4日(水)

伊東は日本人が古来より描いてきた桜や松など花木の美しさを、伝統的な屏風絵や襖絵などで表現してきました。今回は、伊東の視点から捉えた「富士山図屏風」も展示することになりました。それらは伝統に則りながら、現代的な技法や切り口で描かれているという意味でも現代の大和絵と言っても過言ではありません。さらに「散華図」や「野仏図」にみられるような、古来から日本人が自然に抱いてきた神仏への信仰も垣間見えます。それら日本画の世界観をお楽しみいただければと思います。

また、日本の絵画は、日本家屋の襖や屏風といった畳の上での生活空間に装飾として飾られているものでした。今回の展示は、できるだけ、そういった障壁画に近い雰囲気味わっていただければと思います。



「月下富士山図屏風」

月の光とお日様の光って何が違うかって考えると、太陽の光って、それによって、その光で物が見えたり、地球が暖められて動植物が生きてゆけたり、植物が光合成をしたり、殺菌作用があったり、エネルギーに転換したり、いわゆるはっきりとした実利があるのですが、そういう意味では「月の光」って、直接的な実利がない。あるいは薄い気がします。でも、月の光の下にいたことが、心の滋養になっているような。象徴的に、ただ、光に晒されて受けているという感じが心地よいのです。月の光に照らされている富士山。そんな、光によって存在している美しさのようなものを表現できればと思いました。(作者の言葉)

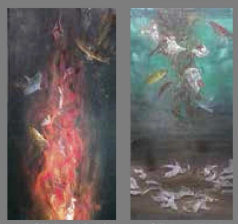
伊東正次 いとうまさつぐ Masatsugu Ito

- 1962 愛媛県久万高原町生まれ
- 1988 多摩美術大学大学院美術研究科修了
- 2004 臥龍楼日本画大賞展優秀賞
- 2011 トリエンナーレ登橋 星野眞吾賞展 審査員推奨
- 2013 日展特選
- 2014 日春展奨励賞
- 2015 中日書画友好二人展(上海・雲間美術館) / 新宿京王プラザホテルロビーギャラリー個展
- 2016 伊東正次日本画展(西予市美術館) / 襖絵の回顧展(名古屋陶磁器会館)
- 2018 ファブリアーノ国際水彩画展(イタリア・ファブリアーノ)
- 2019 クニエ大手町本社ビルロビー壁画製作
当代日本岩彩画展(石家荘市美術館) / SPILIT OF NATURE展(モンゴル・アートギャラリー)
日展審査員 その他個展、グループ展など多数 現在 日展会員

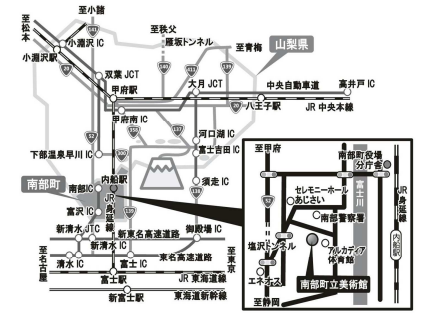
多摩美術大学日本画科在籍中、日本画家の加山又造、米谷清和に学ぶ。大学院終了後オプジェヤ・インスタレーションを制作する。院展同人伊藤彰耳との出会いをきっかけに日本画に戻ることに。樹木や花をテーマにして襖絵を描き始める。その後、コンクールや個展、グループ展などで発表。現在は日展に所属しながら、美術館、ギャラリーなどと共に、古民家、ホテル、寺社、高齢者施設などの公共スペースなどで襖絵を展示、生活に身近な場所での展示をめざし、普段、美術館に足を運ばないような人々に日本画を楽しんでもらえるような機会を模索している。



「散華図屏風」



「散華図(業火)」 「散華図(寂静)」



近藤浩一路記念南部町立美術館

〒409-2213
山梨県南巨摩郡南部町大和360番地
TEL:0556-62-9292 FAX:0556-62-9293
<https://www.town.nanbu.yamanashi.jp>

【アクセス】

- 電車
 - JR 身延線「内船駅」下車
 - ・タクシーで約3分(片道約1,000円)
 - ・徒歩20分(約2km)
- 自動車
 - ・中央自動車道より中部横断自動車道 下部温泉早川ICから約25分 駅道富士身延線を静岡方面に向かい「南部備東詰」交差点を右折
 - ・東名、新東名高速道路より中部横断自動車道 南部ICから約5分 国道52号線を静岡方面に向かい、トンネルを2つ過ぎ当館を左折

【主催】 南部町教育委員会、近藤浩一路記念南部町立美術館
【後援】 山梨日日新聞・山梨放送、テレビ山梨、岳南朝日新聞社、富士ニュース社、富士山新聞、エフエム富士、一般社団法人ARTJAPAN and SOCIETY